

県内地域史

研究会紹介

(六)

大分市大南地区文化財同好会

① 会 名 大分市大南地区文化財同好会

② 事務局所在地 大分市中戸次四四九一の二

大分市大南公民館内

③ 発足年月日 昭和三九年六月一日

④ 会 長 名 広川武男(四代目)

⑤ 会 員 数 一四五名(平成八年八月現在)

⑥ 会誌名・年発行回数 『落穂』・年二回

⑦ 最近数字の主な目次

〔第五一号〕

「発足三十周年を迎えて」首藤忠喜、「鶴ヶ城戸次川合戦の前後の戦(四)」桑原恒夫、「利光の『山崎の地蔵』について」

広川武男、「豊後国大分郡玖珠郡切支丹宗門親類書(六)」種崎

益多、「『贈藤徳興徳将来住此郷』見つかる」種崎益多、

「戸次中学校々庭の蚕霊塔について」広川武男、「中冬田出身 伊東中将と芥川賞」三浦幸三、「判田地区出筆者と題材」首藤敦、「コケ採集とわがまま人生」大塚政雄

〔第五二号〕

「田能村竹田(没後百六十周年に寄せて)」帆足市大、「鶴ヶ城戸次川合戦前後の戦(四)」桑原常夫、「戸次の大内古墳について」広川武男、「高麗出陣豊後国諸侍着到戸次庄衆」三浦幸三、「河原内郵便局戸の沿革」二宮朝徳、「下戸次小学校沿革の概要」広川武男、「時代を語る証券と証書」三浦幸三、「石造物予備調査」(一)

〔第五三号〕

「土佐一条氏・長曾我部氏・大友氏の関係について」広川武男、「伊東氏・土持氏・土持攻め高城、耳川の戦いについて」広川武男、「大分市松岡所在の小牧山古墳群について」池邊千太郎、「時代を語る証券と証書(二)」三浦幸三 「私の韓国引揚げ物語」森分櫻子、「鶴ヶ城戸次川合戦前後の戦(六)」桑原常夫、「石造物予備調査(二)」

〔第五四号〕

「鶴ヶ城戸次川合戦前後の戦(七)」桑原常夫、「米良の堤につい

て」首藤忠喜、「戸次地区の『字名』について」広川武男、
「平山大和守の碑」坂本義人、「伊東政喜中将」補遺」三
浦幸三、「後藤惠一郎氏の碑」首藤敦、「妙見寺由来」秦隆
男、「石造物予備調査(三)」

〔第五五号〕

「山口県方面の研修旅行について」「『城将利光越前守宗魚
終焉の地』の碑について」広川武男、「日露戦役碑と井上光
大将」三浦幸三、「松本清張と竹中の渡し舟」三浦幸三、
「世界最大の仏教遺跡『ポロブドール』を訪ねて」伊東栄、
「石造物予備調査(四)」

⑧ 活動状況

本会の発足の端緒は、後に初代会長となった木本十郎氏
(故人)が「大南地域の落穂ひろいをしよう」と、同好の志を
誘ったのに始まり、当初は約二〇人が集まって、地域の歴史・
遺跡・史跡・文化財・天然記念物・民俗史料・名勝等の調査
研究、顕彰、保護等に貢献したいとの趣旨で本会を発足させ
ることになった。会誌の創刊は昭和四十五年一月と、かなり
遅くなったが、誌名は木本初代会長が同志に呼びかけた言葉

からとって「落穂」とした。本会の近年の主な活動をあげる
と、大南地域の石造物の予備調査があげられる。これは地域
内の石造物の新旧を問わず網羅して調査し、その中から特に
文化財として保護を加える必要性の高いものを選んで、顕彰
しようとするものである。その成果は『落穂』五二号から逐
次連載している。

総会は会員の集まりやすい八月末ないしは九月上旬に行い、
外部からの講師を招いて講演をお願いしている。総会につき
大きな行事として秋に行う史跡・文化財等の見学会(巡検)が
ある。この見学会は市内(県内)と県外を隔年に行うことにし
ている。近年の会は、平成五年度に判田地区の史跡巡りを行
い、同六年度は佐賀県の吉野ヶ里遺跡見学、同七年度は市内
坂ノ市の亀塚古墳の見学と「海部のまつり」見学を行った。
本年度は萩・山口方面の見学会を予定している。今年は大友
宗麟の弟で中国の大内氏を継いだ大内義長の四四〇回忌の年
に当たり、加えて、来年のNHK大河ドラマの主人公が中国
の毛利元就であることから、萩・山口方面の見学会となった
ものである。

(会長 広川 武男)